



R16 オープンスタジオ

■オープンスタジオ

11月16日[金] 17:00～ + 17日[土]・18日[日] 11:00～18:00

オープニングパーティ：11月16日[金] 18:30～(Open Studioは17:00～)

第一期で入居したクリエイターたちによるオープンスタジオを開催します。



アクセス:R16(横浜市西区桜木町7-48)

横浜駅より徒歩12分、みなとみらい線「新高島駅」より徒歩5分

市営地下鉄「高島町駅」より徒歩5分

高島町駅、横浜駅東口から、迂回する陸橋をご使用ください。

またバス停「高島町」「花咲橋」からも歩けます。

*国道16号線の横断歩道のない場所を横切るのは、絶対に止めてください。

お問い合わせ | Creative Network 実行委員会事務局(BankART1929)
cn@bankart1929.com

TEL:045-663-2812 FAX:045-663-2813

〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル410

【R16～国道16号線スタジオ】

旧市街地と新市街地(みなとみらい)を分つ、東急東横線(横浜～桜木町駅)の廃線跡。上部は、かつて線路だった場所を2021年度までに遊歩道へ変換させる計画となっている。今回の試みは、こうした状況の中、現在眠っている高架下を活用し、期間限定のスタジオ・アトリエを挿入するプロジェクトである。位置は高島町の交差点(二代目横浜駅があった場所)から桜木町方面に続く16ブロック約100mのゾーン。原則として制作場所としての活用だが、適時オープンスタジオ、ワークショップ等の期間を設けて、市民に対しても開いていく。

Creative Networkとは?

これまでの横浜市における約13年間の創造都市施策のあゆみを、レクチャー、アーティストトーク、スタジオワーク等のプログラムの開催を通して、この一年間、検証していくプログラムです。こうした活動と情報発信を通して、各創造界隈拠点の繋がりを深め、その活動を広く市民に周知し、次世代につながる都心臨海部の賑わいづくり、活性化を目的とします。

【Creative Network 実行委員会・メンバー】

池田 修(NPO法人BankART1929 代表)、恵良 隆二(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団専務理事)、岡田 勉(株式会社ワコールアートセンター、象の鼻テラスアートディレクター)、加藤弓奈(NPO法人アートプラットフォーム、急な坂スタジオ 代表理事)、木村洋太(株式会社横浜DeNA ベイスターズ、THE BAYS 執行役員事業本部本部長)、工藤裕二(横浜市文化観光局文化芸術創造都市推進部課長)、清水克彦(横浜市文化観光局文化芸術創造都市推進部長)、長田哲征(NPO法人YCCヨコハマ創造都市センター代表理事)、山野真悟(認定NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター 事務局長)

R16

ROUTE

国道16号線スタジオ

OPEN STUDIO



Opening Party

2018.11.16.fri 18:30 -

Open Studio

2018.11.17.sat / 18.sun 11:00 - 18:00



R2 | 金子未弥



私たちは誰もがささやかな場所に関する記憶を持っています。記憶の中に点在する場所を結びつけるとき、ある意味で地理的な制約から解放された「地図」を描くことができると考えます。この想像上の地図を用いて、地域にはっきりと刻み込まれた境界線の意味について考えます。



□1989年神奈川県生まれ。2017年多摩美術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻修了、博士号(芸術)取得。人々の場所に関する記憶から「都市の肖像」へと導くプロジェクトや作品制作を行っている。黄金町レジデンス・アーティスト、ART IN THE OFFICE 2018 受賞、Tokyo Midtown Award 2017 グランプリ受賞。近年の展示に、2018年個展「In search of the juncture of three coincidental sites」(The Container / 東京)、2018年「Street Museum」(Tokyo Midtown Plaza B1, Metro Avenue / 東京)等。

R3 | シェアスタジオ Sha-Ba (写場)



秋山直子 | R16の東西(新旧市街地)を撮影し、写真による越境を試みる。新旧の狭間に位置する空間へ落とし込んでいく。

□京都生まれ。14~19歳をオランダで過ごす。編集者、デザイナーを経て2009年より写真家・元田敏三氏に師事。



古賀通代 | 紙ではない媒体に銀塩写真を焼き込み、独自の世界観を創り出す。地元の方々を巻き込んだイベントを実施。

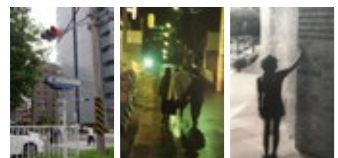
□元国際線客室乗務員。世界中を旅し、子供達の写真を撮影。ポストカード本「KIDS」を出版。個展「未来の子供たちへ」を開催。



北山深雪 | ここに来て、撮りたくなかったしたいことを。写真を愛で感じ出逢う場に。□写真家北山深雪として2017年活動。主にフィルム写真撮影。街中、街と人、海など、心留まり撮る。



hondachihiro | スタジオが置かれている環境に着目し、光や写り込みを利用した定点映像を制作します。□1989年横浜生まれ。2012年 多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業。2016年デザイン事務所退社〜フリーランスのデザイナーとして活動。

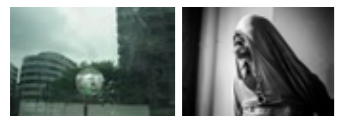


秋山直子 北山深雪 古賀通代



菅原康太 | R16 周辺を中心にリサーチしたものにダンサーの身体表現を重ねて、写真または映像で表現する予定。

□人物撮影を中心に広告などの分野で活動する写真家・映像作家。映画「鼻歌」が第69回カンヌ映画祭にて上映。



hondachihiro 菅原康太

R5 | 363table

R16スタジオは、元東急東横線の廃線跡という、市民にとって親しみのある場所です。363tableは、食や映像、ワークショップ、ライブやダンスパフォーマンスなどさまざまな体験を通して街や市民との共有ができるパブリックな場所を表現していきます。



内藤正雄 | ギャラリー兼道具店「Tür aus Holz」を経て、2018年より横浜/常盤町、山元町にて飲食店「tenjishitsu:Tür aus Holz」を運営する。企画・演出・空間ディレクション・スタイリング等も手がける。



六反征吾 | 2000年東京芸術大学工芸科陶芸専攻卒業。卒業制作作品東京芸術大学美術館買い上げ。ミュージシャン、陶芸家を経て現在は呑み屋/カレー屋店主、内装業も手がけている。



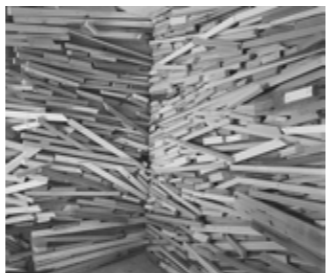
坪田義史 | 監督・脚本。多摩美術大学在学中に制作した「でかいメガネ」がイメージフォーラム・フェスティバル2000で大賞を受賞。2009年、『美代子阿佐ヶ谷気分』(英題:MIYOKO)で、劇場デビュー。2016年「シュルコレクター」(監督・脚本)。最新作「大人の発達障がい」を制作中。



鞆飼三千男 | 約20年の原宿の老舗古着屋勤務を経て2017年大さん橋にてビンテージ眼鏡店「素敵眼鏡 MICHIO」をオープン。日本各地やNYにて出張販売やイベント出店も積極的におこなっている。



福島健士 | 横浜在住、写真家。2012年、パブアニューギニアから帰国後、横浜を中心に撮影を行う。2016年、nitehi worksのメンバーとしてBankART Artist in Residenceに参加。2017年、写真集「Bankoku Boeki Building」作成。



R6 | マツダホーム

マツダホームとは、松田直樹・るみが関内です。この庭と関内の部屋がつながっていくようなことも出来たらと思います。ワークショップもするので、ぜひ遊びに来てください!



□2017年『黄金町バザール2017 - Double Façade 他者と出会うための複数の方法』(高橋ビル302/黄金町/2017)、2018年MATSUDA HOME WEDDING PARTY (BankART Studio NYK / kawamata Hall)、同年黄金町レジデンス2018 成果展、同年3月から関内にてマツダホームとして生活。

R7 | 土屋信子



作品制作を公開。超ひも理論を基盤に、鑑賞者が、抱きかかえられ違う次元に言ってしまうような錯覚を起こすような彫刻を目指す。「六本木クロッシング」森美術館 2019/2/9出品予定。

□神奈川県生まれ、横浜在住。主な展覧会に「30ways to go to the moon」(SCAI THE BOATHOUSE 2018)「L'envo」(メゾンルージュ ファンデーション、パリ、2018)、「De(s) Rivers」(Galerie Aline Vidal、パリ、2018)、「Parking fish project- 寅さん編」(ベニートフォアレスマーケット、メキシコ、2017)、「3拍子洞窟サボテン」(駒込倉庫、東京、2017)、「Spring Fever」(駒込倉庫、東京、2017)、「Museum of Together」(スパイラルガーデン、AIT 主催、東京、2017)、「MATTER FICTIONS」(ペラルド近現代美術館、リスボン、2016)、「Hybridizing Earth, Discussing

Multitude」(釜山ビエンナーレ2016、釜山、2016)、「My Best off, et vous ?」(Gallery Aline Vidal、パリ、2016)。



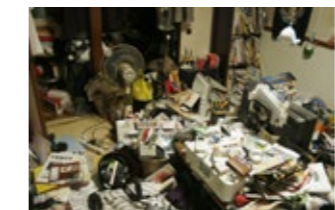
R9 | 渡辺 篤



現代社会の不可視の社会問題ひきこもり。日本だけでも150万人にも及ぶといわれ深刻な状況がある。現在、当事者達にインターネットで呼びかけ、彼女らの生活する部屋の写真を募集する企画「アイムヒア プロジェクト」を実施中。集まった写真を用い、来年2月に写真集発刊と展覧会を開催予定。活動報告及びテーマにちなむ作品を公開。

□神奈川県生まれ。2009年東京芸術大学大学院美術研究科修了。社会からタブーや穢れとして扱われうるテーマを批評的に取り扱ってきた。近年は、自身も元当事者である「ひきこもり」の問題を基点に、心の傷を持った者たちと協働するプロ

ジェクトを多数実施。そこでは、当事者性と他者性、共感の可能性と不可能性、社会包摂の在り方についてなど、社会/文化/心理/福祉のテーマにも及ぶ取り組みを行う。社会問題に対してアートが物理的・精神的に介入し、解決に向けた直接的な作用を及ぼす可能性を追求する。主な個展は「わたしの傷/あなたの傷」(六本木ヒルズA/Dギャラリー、東京、2017年)など。



©2018 fm here Project.

R11 | nitehi works / 堀崎剛志

nitehi works | 『nitehi works』は、似て非なる「似ている様で異なる」という意味と、日常の中の、モノやコトが、移り変わるプロセスの模様を、記憶に留めるべく、其処ならではの気付きを、再度、場の中に重ねて行きます。

□2010年より、稲吉 稔(美術家) 渡辺 梓(役者)と有志と共にアートプロジェクト「似て非 works 株式会社」を設立と同時に、元銀行のアートスペースを運営(2010~16)、ハンマーヘッドスタジオ参加(2012~14)、Bankart AIR 2016参加、アートリノベーション「ゆたかないばしょ」を各エリアにプロットする。



堀崎剛志 | 「横浜を歩いて話して、断片から現れるコミュニティ」関内で偶然知り合った、新井ビルで働く人の何気ないお話を聞きながら、ビルをラテックスで型取りしてもらい、お話ししながら何かを型取りしました。継続しながら、これらとお話の断片から何が見えてくるか体験したいと思います。

□1974年生まれ。美術家。早稲田大学第二文学部美術専修在学中より、漆芸家 大西長利氏に師事(乾漆)。2000年渡米、ロヨラ大学人文学部メジアルアート学科でメディアアートを学び、セントルイス市ワシントン大学にて修士号(彫刻)。その後17年間、アメリカを拠点に、美術館に限らずコミュニティの中で生まれるアートを、地域住民とともにプロジェクトとして実践してきた。主な展覧会に、プロスペクト1ビエンナーレ(2008)、セントルイス市現代美術館個展(2012)Spring Break Art Show「ブルックリン イマーシブ」(2017)など。



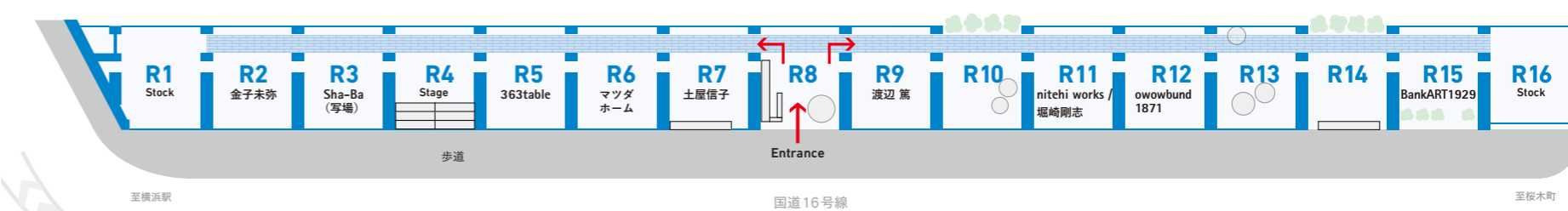
R12 | owowbund1871 (オウオウバンド)



身近な資源から電気をつくる発電所を開発します。実験的に検討を重ねることになりますが、将来的にはR16で必要となるすべてのエネルギー需要に応えることを目指します。発電所内は、室内環境にも配慮した居心地の良い場です。参加メンバーは、電気をつくるためのアイデアをもつ方々みなさんに開かれています。

□創造界隈横浜を形成する建築家を中心としたチーム。OWOW →横浜-桜木時間を縮めて横一様。音読みてOW-OW

BUND1871→袖ヶ浦と呼ばれた入海一帯を埋め立て、その沿岸(bund)を鉄道用地としたのが1871年。Founders(発起人) | 佐々木龍郎(佐々木設計事務所/横浜まちづくり倶楽部副理事長)、加茂紀和子(みかんぐみ共同主宰、名古屋工業大学教授)、曾我部昌史(みかんぐみ共同主宰、神奈川大学工学部建築学科教授)、竹内昌義(みかんぐみ共同主宰、東北芸術工科大学環境デザイン学科教授)、マニュエル・タルディッツ(みかんぐみ共同主宰、明治大学大学院特任教授、ICS カレッジオブアーツ副校長)



至横浜駅

国道16号線

至桜木町